

下呂農林事務所の普及活動状況 令和6年4月30日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■トマト 経営発展に向けた制度資金活用を支援

3月下旬、令和6年度から就農した認定新規就農者と令和7年度に新規就農予定の研修生から経営規模の拡大並びに運転資金調達についての相談がありました。

これを受け、4月15日に資金借入希望者と日本政策金融公庫岐阜支店、県信用農業協同組合連合会、下呂市農務課、農業普及課、農業振興課の担当者で、青年等就農資金の活用についての打ち合わせを行いました。

資金借入希望者からは今後の経営計画や資金活用の目的などを説明し、公庫と県信連の担当者からは、借入希望者の現況や経営計画、資金用途の詳細について聞き取りが行われ、5年目の農業所得が下呂市の目標額を達成する収支計画であることが必要な旨の指導がありました。

農業普及課からは、資金借入希望者の営農状況や栽培規模について指導をしました。今後、農業普及課では、関係機関と連携を図り、資金借入希望者が経営発展できるよう、経営面、栽培面での支援を行っていきます。



【就農状況確認の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■水稲（きぬむすめ） 良食味生産に向けて温湯消毒を実施

萩原町丹精米生産組合では、地域に適した良食味で高品質な水稲生産を目指して、令和4年度から新品種の現地実証を行い、昨年度、高温でも品質低下が少なく、良食味の「きぬむすめ」を有望品種として選定しました。

今年度は、約1.4haの実証ほの設置が予定されており、栽培技術の確立と栽培暦の作成を目標としています。

同品種は、過去に「馬鹿苗病」が発生したため、4月17日にJAひだ益田営農センターにおいて、高温の温湯での種子消毒が実施され、農業普及課から消毒方法の指導と消毒前の籾水分の確認などを行いました。

今後、きぬむすめの移植は5月中旬以降に予定されており、農業普及課では、JAと連携の上、月2回の生育調査を実施し、生育状況を確認するとともに、生産者に対して栽培技術情報などを提供し、良食味米の安定生産に向けて支援していきます。



【温湯消毒作業の様子】

(地域支援係)

■ほうれんそう 目揃え会が開催される

4月24日、JAひだエーピックにおいて、下呂市野菜出荷組合ほうれんそう部会の目揃え会が開催され、生産者2名とJA、下呂市の担当者が出席しました。

最初に、生産者から産地の現状（生産者減少）、播種や生育状況と今後の出荷見込みなどについて情報提供がありました。続いて、JAからSNSで簡単にできる出荷連絡等サービス（試行）の紹介がありました。

目揃え会では、月2回の播種面積調査の提出や無調整出荷（7kg入り）の意向確認、B品出荷の規格変更、虫などの異物混入の防止などについての情報提供がありました。

農業普及課からは、今後発生が増えてくる「べと病」「ホウレンソウケナガコナダニ」の薬剤防除の徹底や気温変化に対応したビニールや被覆資材の活用などについて、情報提供をしました。

今後、農業普及課では、農家巡回に生育状況の把握や栽培技術情報の提供などを通じて、下呂地区の夏ほうれんそうの安定生産を支援していきます。



【目揃え会の様子】

(地域支援係)